



正しくあわてず

119番

九月九日は「救急の日」です。わたしたちの「いのち」を守るため、昼夜を問わず救急活動が行われていますが、救急車を呼ぶときはあわてずに、正確に用件を伝えてください。

ポイント

- 1、事故などの発生場所と近くの目標
- 2、どのようなケガか病気が
- 3、ケガ人や病人の現在の容態(簡単に)

防火管理者

講習会を開催

この講習会は、事業所等において、防火管理上必要な業務を遂行できる管理的又は監督的地位にある方を対象とします。

防火管理者を置かなければならない事業所等で、該当される方は必ず受講してください。

とき・10月12日(月)・13日(火)

午前9時～午後5時
ところ・鷹巣町中央公民館

鷹巣町花園町15-1

受講料・三千円(テキスト代)

就業構造基本調査に

ご協力ください

総務庁統計局では、十月一日現在で「就業構造基本調査」を実施します。この調査は、国民の皆さんの就業・不就業などの実態を詳しく把握して、国や地方において皆さんの仕事や暮らしにかかわる政策を立案し、推進するための基礎となる統計を作るものです。

調査は全国で約三十七万世帯を対象とする大規模なもので、大館市では九月上旬に、無作為抽出によって選ばれた世帯へ予備調査に伺ったうえで、九月下旬、最終的に約三百世帯へ改めて調査票を配布に伺いますので、ご協力くださるようお願いいたします。

なお、調査員は知事から任命され、調査内容を他に漏らすことは法律で固く禁じられています。また、調査票は、一人一人の個人のデータとしては絶対使用されませんので、ありのまま調査票に記入くださるようお願いいたします。

終戦当時の

引き揚げ者の方々へ

通貨・証券などを

お返ししています

税関では、終戦後外地から引き揚げてこられた方が、上陸港の税関や海運局に預けられた通貨・証券や、外地の集結地において総領事館などに預けられた証券などの

交通死亡事故多発警報を 発令

大館署管内における交通事故発生件数は、八月二十日現在で一九七件。昨年同期と比較して七件の増となっている。死亡者は既に昨年と同じ八人を数えており、市では八月十七日に「交通死亡事故多発警報」を緊急発令し、ドライバーや歩行者の皆さんへ注意を呼びかけています。

発生した死亡事故の原因は、スピードの出し過ぎや前方不注意がほとんど。ちよつとした気の緩みでしようが、それが被害者、加害者いずれにとっても取り返

うち、日本に送り返されたものをお返ししています。お心当たりの方は、上陸港を所轄する税関または秋田税関支署(☎0188-4510735)へお問い合わせください。

青少年ホーム

講座受講生募集

▽社交ダンス初心者講座(全10回)
とき・9月25日から
毎週金曜日と月曜日

午後7時～9時

定員・男性10人、女性10人

▽料理講座Aコース(全20回)

とき・10月5日から毎週月曜日
午後6時～8時

定員・25人

▽生花(竹青会)講座(全20回)
とき・10月6日から毎週火曜日
午後6時～8時

定員・40人

のつかない事故を招いています。ドライバーの皆さんは、握ったハンドルに責任をもって安全運転を、歩行者の皆さんは、自分の命は自分で守るつもりで安全確認をしっかり行ってください。無理な横断などは禁物です。



九月二十一日から「秋の全国交通安全運動」が展開されます。くれぐれも事故を起こさず、事故に合わないようお気をつけください。

▽和裁講座(全20回)
とき・10月7日から毎週水曜日
午後6時～8時

定員・25人

▽料理講座Bコース(全20回)

とき・10月8日から毎週木曜日
午後6時～8時

定員・25人

※いずれも9月16日(水)から受け付けし、定員になり次第締め切ります。教材費は実費負担です。

申し込み及び問い合わせ
青少年ホーム ☎42-0872

市民の善意

▽福祉事務所扱い
ラピス電機 4万9、818円
▽教育委員会扱い
ニッショーポリマー
市内小中学校へ試験管
2万6、000本

地震で怖いのは

火事(二次災害)だ

「9月1日「防災の日」

「災害」という言葉を聞いて、あなたは何を思い浮かべますか。

総理府広報室の世論調査(複数回答)では、第一位「地震七七%」、第二位「火災六六%」、第三位「台風六〇%」という結果でした。世界でも有数の地震多発国に住むわたしたちの当然の答えかもしれません。

さて、地震といえば怖いのが二次災害——地震の揺れが収まった後に起きる火災です。過去の例を見ても、大きな地震のときには必ずといっていいほど火災が発生しています。

約十万人の死者を出した関東大地震(大正十一年、マグニチュード七・九)も、火災が発生しなかったら、あれほどの大惨事にならずに済んだといわれています。これ以来、わが国では「地震イコール火災」といわれ続け、今ではだれもが地震の際の火の元には注意を払っているものと思われまふ。しかし、震度五、震度六の地震に襲われたとき、どうしたらいいかわかっているも何もできなかった、という体験談も多いようです。

大きな地震が発生すれば、公共施設も被害を受け、消防車が動けなかったり、電話が通じなかったりということも考えられます。最悪の場合を想定して、ふだんから家の中を安全にし、被害を最少限にとどめる工夫をすることにも、町内会などで話し合い、いざというときは一致協力して消火に努めるなど、自己防衛策を立てておきましょう。

“安全を いつも心に ふむペダル”

— 歩道は歩行者が優先です。歩道が混雑しているときには自転車を降りて、押して歩きましょう。 —